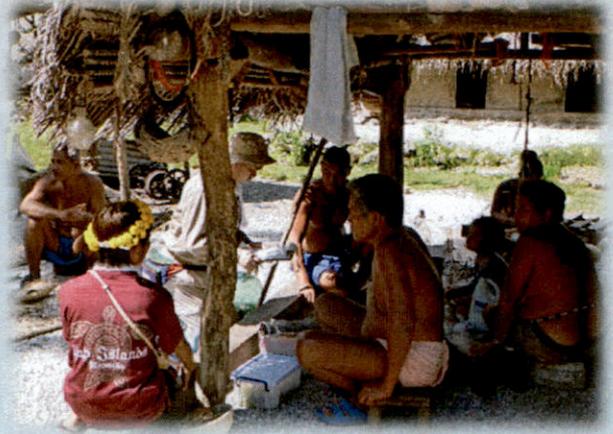


日本政府は、第二次世界大戦中に亡くなられた 日本人の遺骨を捜しています



今般、戦没者の遺族や関係者は、海外で亡くなった愛する人たちがいつか故郷に帰ってくることを望んでいます。第二次世界大戦中ポンペイ島を守備した将兵は度重なる空襲と栄養失調に苦しめられ、460名ほどが命を落とし、その多くは今も祖国への帰還を待っています。

我々は、これら戦没将兵の遺骨情報や埋葬地情報、あるいは何らかの手掛かりを求めています。

戦没将兵の祖国帰還に手を貸していただけるよう、ポンペイおよび他のミクロネシアの島々の皆さまにお願い申し上げます。



[Address]

一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会

•Tel: (81-3)3581-2755

•Fax: (81-3)6206-1880

•Email: jigyoku3@jarrwc.or.jp

ミクロネシア連邦ポンペイ州における情報収集活動について
(日本政府と協会 (JARRWC) からのお願い)

一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会 (以下、「本協会」という) は、国の行う戦没者の遺骨収集及び関連する事業に対し、必要な協力を行うことによりこれらの事業の促進を図り、またこれらの事業を通して遺骨収集に関する諸外国の理解と国際親善の増進に寄与することを目的に平成 28 年 7 月 1 日に設立された。

平成 28 年 8 月 19 日、本協会は厚生労働大臣から遺骨収集業務を行う唯一の法人として指定を受け、戦没者の遺骨の収容や本邦への送還を行い、戦没者の遺骨収集を推進することとしている。

日本政府は、昭和 27 年 (1952 年) より、退役軍人や戦争が行われた現地政府機関等から提供された情報に基づき戦死した軍人の遺骨を収集し本国へ持ち帰り、日本国内で供養してきているが、戦後 70 年以上が経過し、遺骨情報が減少してきていることなどから、遺骨収集が困難な状況になりつつある。

そのような状況から、本協会は、ミクロネシア地域において戦没した軍人の遺骨情報を積極的に収集する事業を行っている。

当方で収集した資料によると、ポンペイ州ソーケス島の日本軍陣地跡で日本兵のものと考えられる遺骨が発見されている。加えて、我々は当時ポンペイ島で戦没してまだ情報を得られていない遺骨の場所の特定に結び付く情報を求めている。

日本政府及び本協会が実施する遺骨収集は、「死亡した者の遺骨を家族の元へ返すことによって死者の霊を弔う」という日本人特有の習慣から、戦没者の遺族からの強い要望を受けて行われている事業であるため、遺骨以外の収集を目的するものではない。

具体的には、ポンペイ島および周辺海域等における旧日本兵の遺骨に関連した情報があつた場合は、可能な限り表紙の連絡先に通報していただきたい。

なお、仮に日本人と思われる遺骨を発見した場合であっても、その遺骨の人骨鑑定を行う必要があるため、発見した遺骨は一カ所に集めることなく、発見された状況をそのまま報告するようにお願いしたい。